



みらいを支える若い力

市では、市民の皆さんの意見を多く取り入れ、市民協働のまちづくりを目指し、「市長と“みらい”を語る集い」や「市長への手紙」を実施しています。今回は、若くして会社を起業した経営者、家業の跡を継いだ後継者の代表を迎え、つくばみらい市の更なる発展、今後のまちづくりについて対談を行いました。

市長 皆さん、新年明けましておめでとうございます。今日は、

こと、思っていることをお聞かせてください。

これからのつくばみらい市の更なる地域発展や魅力発信には何が必要かなど、今後のまちづくりへのご意見をいただければと思います。皆さんの考えている

まず初めに、皆さんは現在、それぞれの業界で活躍されていますが、起業・後継に至るまでには、どのような経緯があったのですか。

自分の「ちから」を試したい

中島 母親が理容店を営んでいましたので、その影響も少なからず大きく、理美容師になりました。東京で仕事を始めましたが、とても忙しくお客様との話もできず、お客様を大切にすることができませんでした。私は

そこで出会った親方の庭師としての考え方、生き方にすっかりはまってしまい、親方のもとで厳しく教えていただきました。その考え、技術がどこまで通用するかと思ひ、独立、起業しました。

田舎が好きですし、お客様を大切にしたいお店にしたいとの思いから、このつくばみらい市で独立し、お店を出しました。

小田島 私の父親は、型枠大工をしていましたので、物心付く頃から現場に連れて行ってもらっていました。そのような環境から、おのずと父親が経営する会社で働き出しました。父親は、元請会社から仕事だけを請

山本 私は、友人の紹介で庭師の世界に飛び込みました。アルバイト感覚で始めたのですが、

ける形をとっていました。私は、お客様からすべての仕事を直接請けたいとの思いが強かったので、父から独立し、起業しました。

野口 実家では父親が営農しており、いずれ跡を継ぎ、父親の代よりも大きく事業をしていきたいとの思いがありました。しかし、1人増えたからといって、収入が1人分増えるわけではなく、サラーマンとして社会人生活を始め、貯金を作った後、就農しました。

